

新田次郎原作『劔岳〈点の記〉』映画化進行中!



男たちの仕事を劔岳^{やま}だけは見ていた。

ここにあるのは、決して名誉のためではなく、利のためでもない、
仕事に誇りをもって挑む男たち。
いまの日本人が失くしつつある、日本のこころの物語である。

『劔岳点の記』は、『八甲田山死の彷徨』『富士山頂』などで知られる新田次郎の同名小説が原作。明治40年、その険しさから「針の山」といわれ、人を寄せ付けぬ未踏峰であり、また宗教上の理由からも登ってはならない山とされた劔岳。そこに、陸軍参謀本部に所属していた陸地測量部の柴崎芳太郎、柴崎を助ける立山の案内人宇治長次郎が、不屈の闘志で挑んだ実話である。

出演は、浅野忠信、香川照之、松田龍平、仲村トオルら、スクリーンで圧倒的な存在感、演技力を発揮するキャストがそろった。今回の企画意図を聞き、昨今まれな長大な時間、気力、体力の必要な映画製作に参加する。

撮影は、いままでの集大成となる四季折々の美しくも雄大な自然、また厳しい自然を撮っていくために、2年間にわたり、延べ200日以上を費やして、実際の劔岳、そして立山連峰でのロケーションを敢行する。

実際の劔岳は、21世紀の今でも難関中の難関といわれる山。撮影は「人の視線からの画を大切にしたい」という監督の思いのもと、作り物でない本物の自然を取り込んだ映像を切り取っていく。

また、『国家の品格』などの著作がある数学者・

藤原正彦は、父・新田次郎著の『八甲田山』『聖職の碑』映画化のカメラマン木村大作が、現代に『劔岳〈点の記〉』の映画化に挑戦することに大いに感動、兄・藤原正広氏と共に企画の応援団を申し出てくれたそうだ。

完成は、2008年末の予定。2009年公開。

上の写真は、実際に木村監督が撮影したフィルムカットの1カット。

■出演

○測量隊

柴崎芳太郎	浅野忠信
宇治長次郎	香川照之
生田 信	松田龍平

○日本山岳会

小島烏水	仲村トオル
------	-------

■監督／撮影

木村大作

1939年 7月13日東京都出身。

1958年 東宝撮影部にカメラ助手として入社。斎藤孝雄(黒澤明組)村井博(岡本喜八組)に多くつく。1973年『野獣狩り』(須川栄三監督)で撮影監督デビュー。

【主な作品】

『八甲田山』(1977)	『駅 STATION』(1981)
『火宅の人』(1986)	『鉄道員』(2001)



発行・文藝春秋
407ページ
720円(税込)